

花壇づくりワークショップ ニュースレター

Vol. **03**
平成 30 年 12 月 12 号

日 時：平成 30 年 12 月 12 日 (水)

9:00 ~ 11:45

場 所：馬見丘陵公園花サポーター花壇
ボランティアハウス

参加者：23 人

9:00 ~ 9:15 全体説明

9:15 ~ 10:00 花壇観察、雑草・既存苗の撤去

10:00 ~ 11:00 苗の配置 (休憩含む)

11:00 ~ 11:30 苗の植え付け

11:30 ~ 11:45 花サポーターのリーダー決め



冬花壇の施工を行いました

12/21 ~ 12/25 に開催されるクリスマスウィークに合わせて、冬のボーダー花壇を作成しました。

花サポーター花壇で冬に花壇を作成するのは今年で 3 年目で、様々な種類の花を植えてみました。その中で、花サポーター花壇では以下の傾向が見えてきました。

- ① ガーデンシクラメンは寒さに負けて枯れる
- ② ストックは元気に育つ
- ③ パンジーは寒いと少し萎れるが春に元気を取り戻す



図鑑やインターネットで冬の花として紹介されているものでも、季節（温度）だけでなく、風向きや水はけ、土など花壇の環境によってうまく育たないことは多々あります。また、冬に咲く花は数が少なく、どうしても使用できる種類が限られてしまいます。

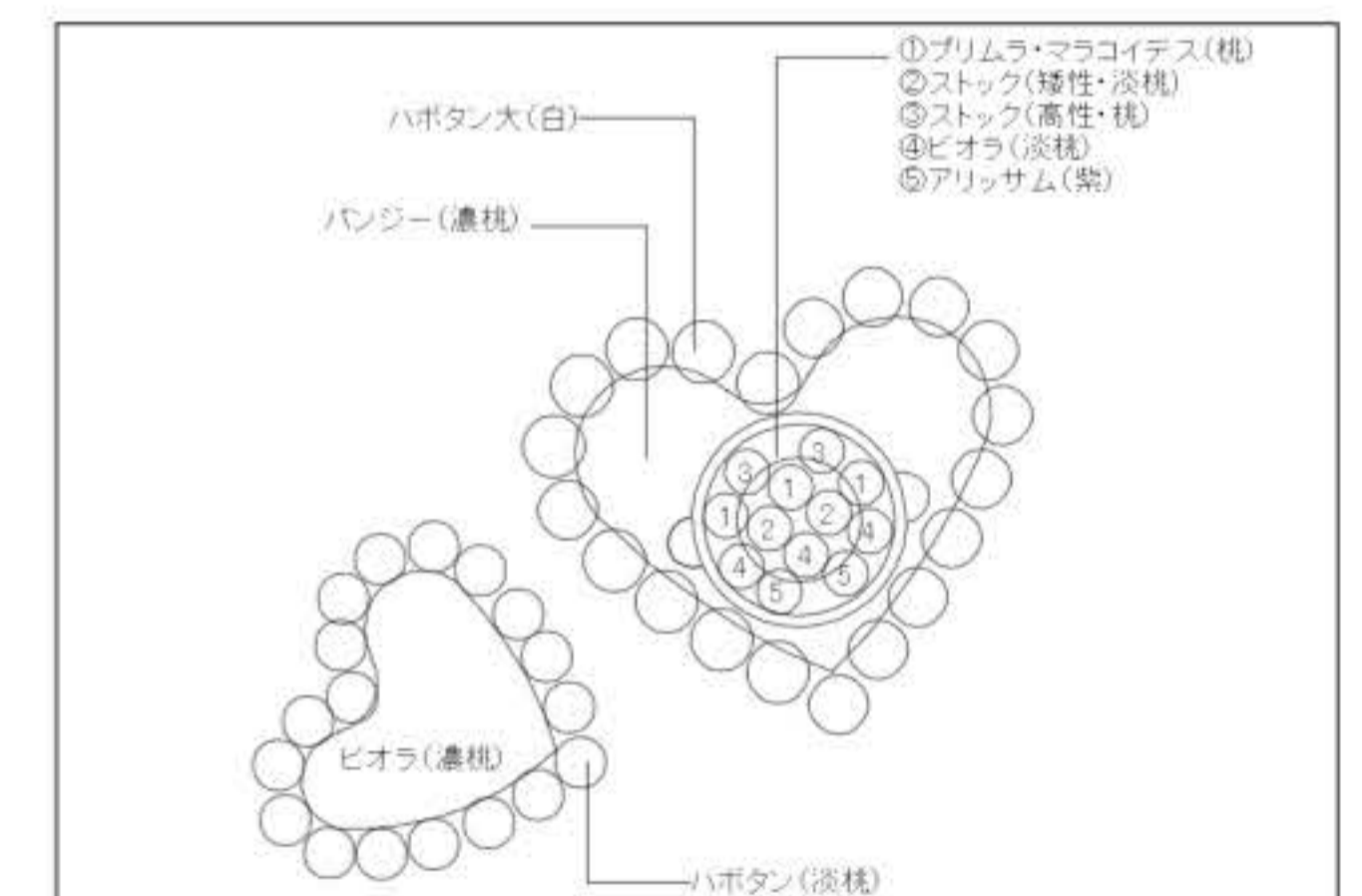
今回の花サポーター花壇ではパンジー・ビオラ、ストック、ハボタンを中心に作成しましたが、ご家庭や地域の花壇を作られる場合は、数種類の花を植えて、その花壇との相性を検証してみてください。

毛氈（模様）花壇に挑戦！！

前回のワークショップアンケートの中で、「毛氈花壇を作りたい」という声があったので、ボーダー花壇の両端にハートの形の毛氈花壇を作成しました。毛氈花壇とは、主に草丈の低い 1・2 年草を用いて、カーペットのように幾何学模様などを描いた花壇のことを言い、模様花壇とも言います。

今回は、クリスマスやバレンタインを意識してハボタンで大小 2 つのハートの形を作り、大きなハートの中にはコンテナを入れました。また、それぞれのハートの中にはパンジーとビオラとを敷き詰めました。ハボタンで曲線を作るのは難しかったのですが、土に線を引いてから苗を並べたり、コンテナを傾けてみるなど、それぞれ工夫されていました。

ハートの形を際立たせるため、今回はあえて芝を張らずに土のままとしています。パークたい肥やウッドチップ等、花と対比できる色の素材を敷き詰めると、より花壇の形がはっきりきれいに見え、マルチング剤としても効果を発揮してくれます。





毛氈花壇を作ってみよう！



▲アキランサスとウッドチップの毛氈花壇

▲2色のハボタンの毛氈花壇

▲4色のパンジーの毛氈花壇

毛氈花壇は名前の通り、絨毯のように模様を描く花壇です。今回花サポーター花壇ではハボタンとパンジー・ビオラで作成しました。毛氈花壇を作る際に使う花は、右の3つのポイントに注意して選びましょう。この3つのポイントを満たす花を季節ごとに紹介します。

◆毛氈花壇に適した花の選び方◆

- ①花期が長く、同じ時期に花を咲かせる植物やカラーリーフ
- ②丈夫で、花と花とが密着して咲く植物
- ③草丈が高くなりすぎない植物

春

- ・シバザクラ
- ・ロベリア
- ・ネモフィラ
- ・スイート・アリッサム 等



夏

- ・ベゴニア・センパフローレンス(春～夏)
- ・マリーゴールド
- ・インパチェンス
- ・アゲラタム 等



秋

- ・アキランサス
- ・ジニア
- ・羽毛ケイトウ
- ・コリウス(種子系) 等



冬

- ・ハボタン
- ・パンジー、ビオラ(冬～春)
- ・プリムラ
- ・クリサンセマム(冬～初夏) 等



質問コーナー

Q. 苗の植え付けピッチはどうやって決めるの？

植えたい植物が、どのくらいの大きさまで成長するかによって異なります。例えばインパチェンスは、成長したときに株同士が少し触れあう程度をイメージし、20～30cm程度の植え付けピッチとします。フラワーフェスタなどのイベント用に花壇を作る場合は、短期間で完成形の花壇にする必要があるため、既に成長している苗を通常よりも狭いピッチで植え、地面が見えないようにする工夫をしています。毛氈花壇では、植え付けピッチを狭くした方が模様がきれいに見えます。

25cmピッチで植えたインパチェンス



成長するにつれて株間が埋まります

Q. 肥料の分量の決め方は？

肥料は大きく分けて、植え付ける前に施す「元肥」と、植物の成長に合わせて施す「追肥」に分けられます。育てる植物によって施肥量、施肥時期、肥効期間、施肥位置は異なるので、ここでは一般的に花壇で使用する元肥の施し方について紹介します。(土を購入する際に「元肥入り」と表示があるものは、既に土に元肥が混ざっているので、更に肥料を混ぜる必要はありません。)

- ①花壇内の土を30～40cmの深さまで掘り起こし、硬い土を耕し、石やゴミを取り除く。
 - ②苦土石灰を全体に薄く均一にかけて、スコップなどで混ぜ合わせたら、1～2週間おく。
 - ③花壇の土を平らにし、その上に堆肥、腐葉土、ピートモス等の有機質肥料(1㎡あたり2～3kg)を施す。
 - ④③に、化成肥料を1㎡あたり100gほど混ぜて、土を砕きながらよく混ぜ合わせて表面を平らにする。
- ※肥料の量や施しからは製品表示をよく確認すること!!

Q. パンジー・ビオラが伸びすぎないようにするには？

パンジー・ビオラは気温が15℃を超えると徒長(ひよろひよろと間伸びする)し始めます。徒長させないようにするには摘心や切り戻しを繰り返し行うことが重要です。

摘心とは、主に成長初期において、苗の最先端の部分を摘み取り、わき芽を発生させ開花させる作業です。摘心を行うことによって、分枝が促進され、花数も葉の数も増えてボリューム感のある株に仕立てることができます。摘心の適期は育てる植物によって異なりますが、主に発育のよい生育期に行います。切り戻しとは、花が咲き終わった時点でその茎をはさみなどで切り、切った下のわき芽を育て、再び開花させる目的で行う作業です。

どちらも茎を切る作業ですが、摘心は茎先を切ること、切り戻しは株の途中で全体的に剪定していく方法のことです。切る位置は、切り戻し・摘心ともに、茎の出来るだけ葉に近い部分です。切ったあと、ほとんど茎が残らないようにします。切ったところから新たにわき芽が出てきます。花芽を切らないように気をつけましょう！



葉の直上で切る



ここから新たに芽が伸びます